



森林ふれあい情報

平成23年12月
第21号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター

〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1

TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151

E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

森林ボランティア・NPO連携推進会議

9月30日（金）・10月1日（土）の2日間、長野県松本市の浅間温泉及びアルプス公園において、国際森林年記念行事の一環として「森林ボランティア・NPO連携推進会議」及び関連イベント「森・ふれあいフェスタ」（連携推進会議実行委員会主催）を開催し、中部森林管理局管内4県から森林ボランティア団体・NPO法人など16団体、48名と局署の職員合わせて総勢67名が参加しました。

会議の目的は、活動や事例報告と意見交換会、市民参加型のワークショップを実施するイベントを開催・運営することを通じて、ボランティア団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民に対し、国民参加の森づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることです。

1日目の意見交換会は「更なる連携（地域・企業・ボランティア団体・NPOなど）」、「資金・指導者の確保」及び「今後の連携推進会議の持ち方」の三つをテーマに、ワールドカフェ方式により行いました。



ワールドカフェ方式による意見交換会

2日目の森・ふれあいフェスタは、好天に恵まれ、約300名の市民、家族づれの方々が来場し、延べ630名の方が12のワークショップ（「竹とんぼ作り」、「竹笛作り」、「丸太切りと小木工」、「ドパスアート」、「かんなくずプール」、「ミニチュアハウス組立」、「ネイチャートレイル」など）を体験されました。

2日間を通じて、会議の目的が達成でき、意義ある「森林ボランティア・NPO連携推進会議」となりました。



ドパスアート



かんなくずプール



ミニチュアハウス



ネイチャートレイル



参加者（森林ボランティア団体等）の皆さん

長野県西部地震災害復旧地における 自然再生事業

1984年(昭和59年)9月14日午前8時48分49秒に長野県木曽郡王滝村の御嶽山付近でM6.8の地震が発生し死者・行方不明者29名・家屋の損壊604戸という深い爪痕を残しました。

この長野県西部地震により御嶽山南側に「御嶽崩れ」と呼ばれている山腹崩壊が発生し、その大量の土石は王滝川支流の伝上川を時速100km近い猛スピードでかけ下り、一部が小高い尾根を乗り越え隣の濁川・鈴ヶ沢をも流下して約600haの森林を消失、地形を一変させました。残ったのは崩壊土石岩等に覆われた広大で荒涼とした地域でした。

その後、二次土砂災害防止・荒廃地の緑化を図る治山事業やボランティア活動の手を借りた自然再生が進められて来ています。



御嶽山と緑化された濁川を望む

その中でこの27年の間に土壌の客土、9万本もの苗木の植林や下草刈り、施肥、除伐等の保育事業も実施されてきました。

現在濁川の平坦な一帯はそうした努力の結果、ハンノキ・ヤシャブシ等の肥料木をはじめとした樹木に覆われています。本来の森林土壌形成には100~200年以上かかるともいわれていますので、まだまだ貧相ではありますが落ち葉の供給から土壌の形成が行われつつあります。

今秋はヒノキの生長状況調査、肥料木とするハンノキの萌芽による後生枝発生促進の試験調査を行って

います。

この試験では、ハンノキの樹高が高くなっていることから、将来目指す在来樹種である下層木のヒノキや広葉樹等にも受光しやすい環境づくりと、ハンノキの萌芽促進による肥料木効果の持続を狙う試験です。現在のところ後生枝は1年目の発生は見たものの2年目には腐朽菌の侵入等もあり、ほとんど発生が無いため、木口を保護するという手法を試行錯誤して行っているところです。



菌により枯死したハンノキ



ハンノキの伐採



腐朽菌の侵入を防ぐ処理をした木口

福島小学校の森林散策案内

この秋一番の晴天に恵まれた10月26日、木曽町福島小学校5年2組の生徒は、学校近くの城山国有林で森林散策を楽しみました。これは野外学習として、学校から当センターと木曽町の林業振興会が案内依頼を受け実施したものです。

出発に先立ち振興会の会長から、城山国有林ガイドマップで、地図の見方の説明を受け散策に入りました。



地図の上の方が北です

途中ではエビフライと言われる、リスがかじった松ぼっくりにストラップを付けてアクセサリを作り。トチの実を拾っては中身をくり抜き、トチの実笛を作って秋の1日を満喫しました。



エビフライ見つけた！

アクセサリ完成



うまく鳴らないなあ

樹齢 300 年の森林づくり

10月8、9日木曽署と「ふれあいの森林」協定を締結しているNPO地球緑化センターからの間伐作業指導要請に基づき、当センターから2名の職員が指導に当たりました。

平成8年から継続している取り組みで、当センター発足当初より関わっており、今回の参加者は初心者からベテランまで17名で、かかり木の処理に苦戦しながらお互い助け合い清々しい汗をかいた2日間でした。



間伐木に向かう参加者



揃っての記念撮影

史跡の森遊歩道整備

10月26日、木曽町及び城山史跡の森倶楽部から老朽化した棧橋の架け替え作業の技術指導要請を受け、当センター・木曽福島森林事務所から6名が赴きました。

城山史跡の森はセンターの活動拠点でもあり、JR木曽福島駅から中心部まで約50分とアクセスに恵まれ、貴重な天然林という条件にあり、訪れるお客様が多いため、安全上の配慮から今回の改修計画に至ったもので、更に利用の頻度が増すものと期待されます。



指導する職員



林内がみるみる明るく



完成記念スナップ

緑の挑戦者の森林整備指導

10月29日木曽郡3町村と森林整備協定を結ぶNPO法人「緑の挑戦者」60名が、木曽町戸立の町有林で今年最後の森林ボランティアに汗を流しました。

当ふれあいセンターでは木曽町の要請を受けて、作業用具の貸し出しと、技術指導を行いました。

自家用車やバスで名古屋方面から到着した個人・団体の参加者は、副町長の歓迎挨拶を受け、除伐作業に取り掛かりました。



伊藤理事長による注意事項

今回初参加の女性は、足元を気にしながらノコギリを使っていました。最後に町の関係者から「手入れ後の林がどのようになっているか、見に来て下さい。」と挨拶があり、帰路につきました。

編集後記

この紙面が皆さんのお手元に届く頃には、新しい年を迎えていることでしょう。

今年は3月11日の東日本大震災に伴う津波による被害や原子力発電所の事故が発生して今も復興の途にあります。

私たちの業務にも影響が及び、林業本来の長く粘り強い取組の大切さを痛感するものです。